

「8Peaks living」の強みについて

意見要旨	説明・回答要旨
私は、建築事務所を経営していて、ここ数年で 10 人ぐらいの移住されて来た方を従業員として受け入れている。その従業員のほとんどは、山が好きで八ヶ岳に憧れて茅野市に来たという方。 弊社では、移住される方の住宅のお手伝いもしているが、移住して住宅を建てられる方が今多くなってきていて、その大半が、八ヶ岳の麓に住みたいという方。地元だと、山があるのは当たり前で、山に登ることも億劫だと思ってしまうが、実際に移住されて来た方は、山登りに憧れている。そういったことも踏まえて、ぜひこの施設や茅野市として、もっと山に特化したものを全国に売り出していくと、わかりやすいターゲットिंगになり、観光客も移住者も増えていくのではないかなと思う。	(市長) 昔から、山登りを目的にたくさんの方が茅野に来ていた。私が高校生のときは、駅構内のコンクリートの上に寝ている人（登山客）がたくさんいた。ただ、現代ではそういったことは難しいので、電車でいっちゃった方が少しでも体を休める施設になれば良いという思いも今日の会場である「8Peaks living」に込められている。 昨年、八ヶ岳周辺の 13 市町村が、一緒に八ヶ岳を盛り上げていくことを目的として、環八ヶ岳連携推進協議会を立ち上げて、今年から本格的に動かしていく。この協議会の中では、八ヶ岳周辺の 13 市町村で一つになって登山道や周辺道路の整備、鳥獣害の対策等に取り組んでいく予定。

茅野市の魅力的な場所について

意見要旨	説明・回答要旨
茅野市には素敵な場所が沢山あり、素敵な方々がたくさんいる。そんな場所に住んでいる方々だったり、農家の方だったり、がんばっている方々にスポットを当てながらビデオに残して、プロモーションしたいと考えている。 そこで、ここだけは撮影スポットとして外せないという、市長のおすすめスポットを教えていただきたい。	(市長) 茅野市には、八ヶ岳だけでなく、南アルプスと富士山が併せて見られるスポットがいくつもある。そういった珍しいスポットに焦点を当ててみるのはどうか。

若者との意見交換について

意見要旨	説明・回答要旨
私は、茅野市出身で大学進学とともに東京へ出て、2年前から茅野と東京で2拠点生活をしながら、仕事をしている。 私から1つの提言と1つの宣言をさせて、いただきたい。 端的に申し上げて、この懇談会に参加している若者が少ない。ただ、こういった場を設けていただくことは、茅野市にとって大切な一歩だと思っている。一方で、地域で若者世代・子育て世代の思っていること、考えていることを把握するために、今井市長、もしくは他の方でもいいので、市役所の方が現地に足を運んで、泥臭く皆さんの意見を聞きに行ってほしい。 もう一つの宣言は、私は地域デジタルの関係で、いろいろな学びの場を作る中で、地域や若者が考えていることや思っていることを発信できる場を必ず作る。その場に来ていただき、積極的に皆さんの声を聞きに来ていただきたい。	(市長) 地域に足を運ぶことは大事だと思っている。 私が市議会議員や県議会議員だった頃は、様々な場所へ行って話を聞く機会が多かったが、今は立場上思ったようにそういった機会が取れないことは残念に思っている。 ただ、通勤通学バスについては、当時運行していたバスは、ルートや時間が若者世代の利用を全く考えていないというご意見を高校生から直接いただき始めた経緯がある。 今回の懇談会は、様々な業種や年齢の皆さんにご参加いただいている。しっかりご意見を聞いて市政に反映したい。

子ども会議について

意見要旨	説明・回答要旨
25年前、高校2年生のときに、茅野市に要望して、CHUKO らんどチノチノという中高生の居場所をベルビアの2階に作っていただいた。 私は、その夢を実現するために市にたくさん応援していただいたので、今はこの地域で子どもたちの支援に携わらせていただいている。若者の声がなかなか届いてないという中で、私はまた「愛しているぜ茅野ミーティング」を復活していただけない	(市長) 行政が主導で開催する会議は固い雰囲気になってしまうので、ぜひ皆さんから開催方法を提案していただけると助かる。 また、CHUKO らんどチノチノを巣立っていった子どもたちの中で、市のまちづくりや子どもたちの学びの環境の支援などをしてきている事例もある。そういった人たちと協力しながら進めていくことが理想。

かと思っている。 このミーティングでは要望だけでなく、自分たちでできることは自分たちでやる。 どうしても大人でないと解決できない問題は大人を頼る、というルールで活動していた。 私は全国の様々な子ども会議に関わっているが、大人に言うだけ言って、実現がしない子ども会議はどんどんと廃れていっている。 子どもの全ての意見を聞くことはできないので、子ども達が提案して、その活動を支援する場を作ることが大切だと思う。私も全力でお手伝いするので、市長の考えを聞かせていただきたい。	
---	--

タクシーについて

意見要旨	説明・回答要旨
駅の東口、西口両方に言えることだが、タクシーの待機場にタクシーがいないことが多い。先ほど子どもの送迎時に駅のロータリーが混雑して、車道にはみ出しているという話があったが、この空いている待機場を駐車場として開放すれば混雑は緩和されるのではないか。	(市長) 貴重なご意見に感謝する。 検討させていただく。
タクシードライバーの成り手不足への対応として、どこかの市町村では、市が自動車運転二種免許の取得を補助して、夜間に2時間ほどドライバーとしてアルバイトができる制度を整えている自治体があると聞いた。 また、部活動の地域移行などに伴って、公共交通への需要が増える一方、ライドシェアの話がよく出てくるが、法改正の審議はなかなかうまく進んでいない。そういった	(市長) タクシーの待機場所や二種免許でなければタクシードライバーができない仕組みは、法律に関わるが多いため、地方自治体ではなく、国で議論をしていく内容となる。ただ、しっかりと我々の要望を運行业者や県、国へお伝えして、一つでも多く実現できればと思っている。 (8Peaks living 運営者) この地域には、長年国政に大きく携わって

中で、茅野駅の東口には多くの観光客がタクシーを待って行列となっている光景をよく見かける。茅野市としてライドシェアを含めた環境整備について、考えてみてはどうか。	いる国会議員がいらっしゃる。また、8Peaks living には、国と規制改革に取り組まれている大手企業の担当者の方がいらっしゃったりするので、茅野市は他の地域より国との距離が近いのではないかな。 (市長) 茅野市は国家戦略特区として、他地域でできない取組ができていいる一方で、規制緩和がなかなか思うように実現できていないものもある。地域の皆さんのご意見を伺いながら、そういったものを国に対して、粘り強く交渉していきたい。
--	---

子どもたちの居場所について

意見要旨	説明・回答要旨
今、不登校になったり、いじめを受けていたり、自殺してしまう子どもたちが沢山いる。そういった子どもたちや障害を持っている人が、勇気をもってコミュニケーションが取れるような居場所を作ってほしい。また、茅野市の良いところをしっかりと市内外にアピールして、日本一の市になればと思う。	(市長) おっしゃる通りだと思う。 官民で様々な居場所を提供する中で、老若男女、障害の有無問わず、様々な方が集まって交流できることが大切だと思う。 日本一の市になりたいという心意気は持っている。まずは、「ちの」と読んでもらえるように知名度の向上をはかっていきたい。 (8Peaks living 運営者) 8peaks living では、8 つある指針のうちの1つに「違いをポジティブに捉える」ことを掲げている。いろいろな背景を持った方が集まっておもしろい何かが生まれることを期待している。 また、このイベントゾーンでは、定期的に子ども食堂もやっていて、多くの方が集まって交流している。

新しい就活モデルについて

意見要旨	説明・回答要旨
私は、信州の若者が次世代で活躍できる若者をつくることのできる循環を目指して活動している。具体的には、長野県の魅力を発信するフリーペーパーを作ったり、就活生に向けて茅野市の美味しい食事と市内の就活情報をセットで送ったりして、その後の市内事業者とのマッチングに繋げていく「食べる就活」という事業を考えている。行政の皆さんのご意見をいただきたい。	(市長) 本日は、産業経済分野や地域創生分野の職員も参加しているので、是非情報を共有してご相談いただきたい。

遊具の整備について

意見要旨	説明・回答要旨
私の住んでいる地区の遊具は、整備されてから約35年経過していて、老朽化が進んでいる。子ども会でアンケートをとったところ、すべての回答者が遊具の撤去ではなく更新を希望している事がわかった。こうした住民の声を届けたく今回参加させていただいた。	(市長) 市内全域で遊具が老朽化しており、このままでは危険な状態な遊具があることも把握している。しっかりと整備していきたいと考えている。 (都市計画課長) 市で管理する公園では、子どもたちが遊具を安全に使用することができるように整備を進めている。 ただ、少子化や市の財政状況等を鑑みて、今まで整備してきた遊具を全て更新することは難しいと考えている。使用頻度や安全性などを考慮しながら、優先順位を付けて整備していく予定。グリーンヒルズビレッジの遊具については、別途話をさせていただく。

耕作放棄地について

意見要旨	説明・回答要旨
茅野市出身で農家をやっている。近隣にある耕作放棄地を取得したいと思い行政に相談したが、所有者が不明となっていて、打つ手がないと言われた。これは、今後さらに増えることが予想され、収入を左右する大きな問題なので、何か対策を打っていただきたい。	(市長) 農地だけでなく、山林などでも同じような問題が出てきている。ただ、法律等により現状、手が打てない状況なので、国会議員などの協力を得ながら、国等へ要望していきたい。

移住促進について

意見要旨	説明・回答要旨
就農 LABO に所属する一方で、主に関東圏や中京圏に向けて、移住を促進する取組にも関わっている。茅野に興味を持ち、今後本格的に移住を検討される方も増えてくると思うが、茅野での生活を1～2週間ほど体験することができる施設(建物)はすぐに予約が埋まってしまい、圧倒的に数が不足している状況。予約をとれなかったことで移住を断念する方もいるので、行政でそういった施設を一定数確保していただきたい。	(市長) 行政として、しっかり協力したいと考えている。 今後、担当課を通じて詳細な対応を検討していただきたい。

市の農業政策について

意見要旨	説明・回答要旨
就農 LABO では、今後活動していくにあたって、市の農業政策等に非常に強い関心を持っている。そこで、市で行われている、政策を決定する会議に参加させていただくことはできるか。 会議に参加して、市の農業政策等をしっかりと理解することで、お互いの業務を効率化できるのではないか。	(市長) とてもおもしろい提案だと思う。 現状、実際に活躍されている農家の皆さんから直接意見をいただく場も少ないので、いただいた提案も含めて意見交換の場を設けていきたい。 (副市長) 各分野の様々な会議で、これからのまちの

	短期的、あるいは中長期的な方向性を市民の皆さんと対話し、合意いただくなかで決めていくことが大切だと感じている。また、先ほどご意見いただいたように、行政として様々な機会を通じて市民の皆さんの意見を集めにいくことも大切と考えている。 (市長) 市の職員が、就農 LABO の皆さんとざっくばらんに対話できる機会を作りたいと思う。
--	---

産前産後のサポート事業の拡大について

意見要旨	説明・回答要旨
助産師として産後の母を支える活動をしている。出生率が下がっている一方で、子どもへの虐待率は上がっており、母の自死率も上昇傾向にある。そういった母たちを支援するために、母子ともに参加できる居場所づくりのイベントを開催している。今後多くの皆さんに参加いただきたいので、たくさんの参加者を募ることができる施設等があれば良いと思っている。この場にいる皆さんにアドバイスをいただきたい。 また、市長をはじめ行政には、産後ケアの様々な活動に積極的に助成をいただき感謝している。これからも、よろしくお願いしたい。	(市長) 産前産後のサポートは、非常に重要な活動だと考えており、活動に感謝する。 イベントを開催するにあたっての会場の問題だが、具体的にはどんなことができる施設が良いのか。
正常な思考には、「睡眠」と「食事」が大切。加えて、女性は話すことが好きなので、宿泊施設の日中の空きスペースなどが理想。 また、諏訪中央病院の産後ケアを行う施設は、改装されてとても利用しやすいが、なかなか予約が取れないという話も聞く、そういった施設や潜在保育士の方と連携しながら今後活動ができればと考えている。	(中央病院先生) おっしゃるとおり、産後ケアのサポートについては、なかなか人員を割くことができずに、予約が受けられないこともある状況。 今後、外部の団体の皆さんと協力してケアを拡大していくことも検討しているので、今後情報共有をさせていただきたい。

課題解決に向けた議論のあり方について①

意見要旨	説明・回答要旨
様々な年齢層が対話しながら地域課題の解決や地域の中で協働していくことが理想だと思っている。 私は今日初めてこの施設を訪れたが、高校生の時にこの施設があれば積極的に利用していたと思う。 今日の懇談会に多くの分野の皆さんが参加していることは、もともとの施設で繋がりが醸成されていたからこそであり、こういった場の醸成を様々な分野や年齢層へ発展させていくことが大切だと感じた。 このように構築された関係性の中に、市が今回のような会議をとおして関わり（入り込み）ながら、行政と市民の皆さんが課題解決に向けた議論をすることで、その内容（中身）がより深くなるのではないかな。	（市長） おっしゃるとおりだと思う。 私がまちづくりを進める中で大切だと思っていることは、これからの茅野市を担っていく若者世代の意見をどれだけ市政に取り入れる事ができるかということ。 大変貴重な意見をいただいたので、庁内で展開していく。

課題解決に向けた議論のあり方について②

意見要旨	説明・回答要旨
市民と行政との懇談で、市民の皆さんの本音が出てくることはほとんど無い。それでも、時間と労力をかけて市民の声を聞く覚悟をもっていただきたい。	（市長） 市民の皆さんの声を粘り強く聞き続ける覚悟は持っているし、そのためにこのような施設も作っている。 また、市政へのメールや手紙をとおして、市民の皆さんの様々なご意見・ご提言も多くいただいている。そういった内容も市政にしっかりと反映しながら、今後も市民の皆さんと膝を交えてしっかり対話していきたい。 （副市長） どうしても市民の皆さんと行政との対話という構図になってしまうが、市民の皆さんの中でも、議論していかなければならない

	ことがあると思う。 茅野市のまちづくりは、様々な方が外から来て、交流を基軸として混じり合いながら歴史と文化を作り上げて発展してきている。コロナ禍では、外から人を入れるなどといったようなご意見や、公共施設では、市民と市民以外で利用料金に違いを設けるべきだという意見をいただいたが、茅野市のまちづくりは、茅野市に住む人、訪れる人が1つになってまちを作っていくことが大切だと思っている。 そういった動きに関連して、行政はしっかりと情報を開示して市民の皆さんと対話していきたい。
--	--

給食費について

意見要旨	説明・回答要旨
私の子どもは、不登校で学校にあまり行けていないが、学校へ行った時には給食を食べてほしいと思い、毎年給食費を払っている。ただ、一度も給食を食べない月があるにも関わらず、給食費は1円も払い戻しが無い。他自治体では、給食を食べなかった日に応じて、給食費の払い戻しがあるようだが、茅野市はそうしたことはしないのか。	(教育長) 今回、国の給食費に対する補助が決まったため、今後、一定期間続けて給食を食べる事が出来ず、学校に申請し給食を停止している児童保護者には、割合に応じて補助分をお返しすることとしている。 また、学校へ行く頻度等によっても個別の対応ができる場合があるので、学校と話をしていただければと思う。